

すべての国指定史跡に史跡名・読みかた・所在地・解説を五十音順に配列した！

【編集】 学生社編集部

【協力者代表】

磯村幸男

(福岡県世界遺産登録推進室参事・元文化庁主任文化財調査官)

坂井秀弥

(奈良大学教授・前文化庁主任文化財調査官)

国指定史跡事典

二〇二三年四月発売！



国指定の二六九四件の

特別史跡・史跡(二〇二三年四月二日現在)について

史跡名・読みかた・所在地・解説を

五十音順に配列した。

また巻末に国指定特別史跡・史跡の

各都道府県別索引と

各都道府県指定史跡二覧(都道府県別)を付した。

【本文組み見本】(実際の本はA5判サイズで、これより大きくになります。)

のに類する可能性もある。本古墳群は全国に数少ない積石塚として重要であるばかりでなく、礫洲上にあって画然とした墓域を示し、牧島東部にある同時期の集落との対応関係も考えられ、古墳時代後期の群集墳のあり方を理解する上でも重要。

牧野車塚古墳(まきのくるまづかこふん) 大阪府枚方市小倉東町

枚方台地の北縁に沿って標高22m 余りのところに築かれた古墳時代中期の前方後円墳。主軸は地形と平行する東西方向であり、墳長107.5m、後円部直径54.5m、前方部幅44m。周濠をめぐらし、西と南には周堤を設けている。1979(昭和54)年の後円部側周堤西側の発掘調査で、幅4～5m・深さ20～30cmの周濠跡を確認、築造当初には2重周濠であったことも判明。濠内からは円筒埴輪を検出。埋葬施設の構造や副葬品の内容が不明のため、正確な築造年代は決められないが、墳丘の形状からみて古墳時代中期前半、5世紀前半代の築造と考えられる。

纏向古墳群(まきむくこふんぐん) 奈良県櫻井市太田・著中・辻・東田・巻野内

初期大和政権が成立した奈良盆地東南部に集中している纏向石塚古墳・纏向矢塚古墳・纏向勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳からなる出現期の古墳群。墳丘はそれぞれ墳長100m 前後の前方後円形で、後円部に比べて前方部の高さが低い。築造時期は土器という庄内式から布留式の初めで、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭にかけて、3世紀半ば前後と見られる。纏向石塚古墳の周濠から出土した木製品やホケノ山古墳の埋葬施設が石積木構であることなど、定型化した前方後円墳より時代が古く、弥生時代終末期の墳丘墓とする意見もある。なお、長期間の発掘調査がつけられたが、2010(平成22)年には纏向地区から東西に並んで中心線をそろえた掘立柱建物が4棟検出され、建物の傍の穴からは大量の桃の種や動植物遺体などが発見された。初期大和政権の宮殿の可能性も考えられている。定型化する前方後円墳の成立過程や、古代

国家形成過程と当時の社会のあり方を知る上できわめて重要。

政元城跡(まさもとじょうあと)→**江馬氏城館跡**(えまししろやかたあと)

益田氏城館跡(ますだしじょうかんあと) 島根県益田市三宅町・東町・七尾町・大谷町

島根県西端に位置し、益田川沿いの三宅御土居跡と七尾城跡からなる。三宅御土居は南北朝時代から関ヶ原の戦いののち、益田氏が長門国須佐に移るまでの間、石見国を代表する武士団・益田氏の本拠。桃山時代には東西190m・南北110mにおよぶ大規模な館で、周囲は堀や川でかこまれていた。標高約9mの微高地上にあり、現在でも高さ5mにおよぶ東西の土塁が残っている。七尾城は三宅御土居跡の南東約900m、益田平野を一望できる標高約118mの丘陵上、さらに100m 高い七尾山全体に築かれていた山城。南北約600mの範囲内に大小40あまりの曲輪、堀切、土塁や井戸が現存。1990～2001(平成2～13)年度に発掘調査した結果、戦国時代末期の礎石建物が多数検出され、遺物も大量に出土した。益田氏が毛利氏の攻撃に備えて、三宅御土居を離れ七尾城に居住していたことが分かり、砦という性格だけの山城ではなかったと考えられている。周辺には益田氏ゆかりの社寺や歴代の一族の墓などが数多くある。

増山城跡(ますやまじょうあと) 富山県砺波市増山

砺波平野の東縁、標高120mの丘陵上にある大規模な中世山城。砺波・射水・婦負三郡の境にあり、戦国期には守護代神保氏、一向一揆勢、越後長尾(上杉)氏などが割拠した。1576(天正4)年に上杉謙信により落城。謙信の死後、織田信長勢が進出し、1583(天正11)年には信長配下の佐々成政の居城となった。その後、豊臣秀吉が越中に侵攻し、1585(天正13)年に前田利家の家臣中川光重が入城し、慶長年間頃まで存続したと考えられている。城跡は和田川東岸の南北約1.4km、東西0.9kmと広大であり、最高部には天保年間(1830～44)の絵図で二の丸とされる曲輪があり、東西90m、南北50mの規模をもつ。その北東隅に櫓台が

国指定 史跡事典

〈本書の特色〉

- 1 本書は、平成二四年四月二日現在における**国指定の特別史跡・史跡**のすべてを五十音順に配列し、**読み方・所在地・解説**を加えた。
- 2 特別史跡については史跡名の後に(特)という表示を加えた。
- 3 全項目について、**文化庁文化財部記念物課の文化財調査官による指導・校閲・加筆や、各都道府県の文化財担当者**に最新の情報による点検・校閲を数回にわたってお願いした。
- 4 所在地については、市町村合併などによる最新情報による表記としたが、細かい番地などは省略した。
また**複数の都府県・市もしくは町**などにまたがる場合は、それぞれの所在地をできるだけ掲載した。
- 5 説明は簡潔を心がけたが、**立地、過去の発掘調査、史跡の内容、出土品、重要性のポイント**などできるだけ解説するようにした。また一部については**現状・公開の有無・資料館の設置等**にもふれた。
- 6 年次表記は西暦とし、()内に日本の元号を併記した。但し沖縄県の史跡は、廃藩置県以前の年号が必要な場合には中国の元号を併記した。
- 7 特別史跡・史跡**都道府県別索引**を都道府県ごとに五十音順で巻末に付し、指定年月日(追加指定年月日も含む)も合わせて掲載した。
またそのさいには主題目として扱われない遺跡名も、すぐ頁数がわかるように配列し、複数県にわたる史跡は、所在する各都道府県の欄にも掲載した。
- 8 上記のほか平成二四年四月二日現在の**都道府県指定史跡一覧**を巻末に、都道府県別に五十音順で配列した。また、「特別史跡及び史跡指定基準」と「**史跡の種類別・時代別・指定件数**」
「**特別史跡及び史跡都道府県別指定件数**」を冒頭に付した。



学生社

〒113-0864

東京都足立区鹿浜三二七一四

電話 〇三三三八五七二〇三二

FAX 〇三三三八五七二〇三七

http://www.gakusei.co.jp

e-mail: info@gakusei.co.jp

定価 〇(本体 一四、〇〇〇円十税)

編集 〇 学生社編集部

協力者代表 〇 磯村幸男 (福岡県世界遺産登録推進室参事・元文化庁主任文化財調査官)

坂井秀弥 (奈良大学教授・前文化庁主任文化財調査官)

A5判上製箱入り 五三三頁

〇 注文は学生社、またはお近くの書店にお申し込みください。

国指定 史跡事典 [申込書] ISBN978-4-311-75040-3

学生社

〇 購入冊数

冊

〇 住所

〇 氏名・団体名 (ふりがなもお願いします)

〇 電話番号

e-mail

弊社では、これまでに収集・蓄積してまいりましたさまざまな個人情報について、弊社の出版情報、及びそれに類する情報のご案内に限定して利用させていただき、それら以外には一切使用しないことをお約束いたします。

六一書房

電話 03-5213-6161

FAX 03-5213-6160

E-mail info@book61.co.jp

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 2-2-22